

# 微風

そよかぜ

山陰労災病院

平成22年1月号

No.37

- 病院機能評価認定施設
- 医師臨床研修指定病院
- 地域医療支援病院
- 救急告示病院

## 山陰労災病院の基本理念

私たちは、地域の皆さまと働く人々から信頼され  
選ばれる病院を目指します

## 緑内障のお話

眼病医師 川口亜佐子

緑内障は我が国における失明原因の上位を占めており、常に大きな問題として取り上げられています。2000年に岐阜県多治見市で行われた大規模な調査では、40歳以上の方の緑内障有病率は5.78%であり、17人に1人であることがわかりました。しかも緑内障があるのにもかかわらず、これに気付かずに過ごしている人が大勢いることも判明しました。

最近の緑内障の診断と治療の進歩は目覚しく、以前のような「緑内障＝失明」という概念は古くなりつつあります。現代医学を駆使しても失明から救えない極めて難治性の緑内障が存在することも事実ですが、一般に、早期発見・早期治療によって失明という危険性を少しでも減らすことができる病気であることは間違いありません。

### ■房水と眼圧

房水とは目の中を循環する液体のことで、毛様体で作られて、虹彩の裏を通過して前房に至り、隅角にある出口から排出され、眼外の血管へ流れ



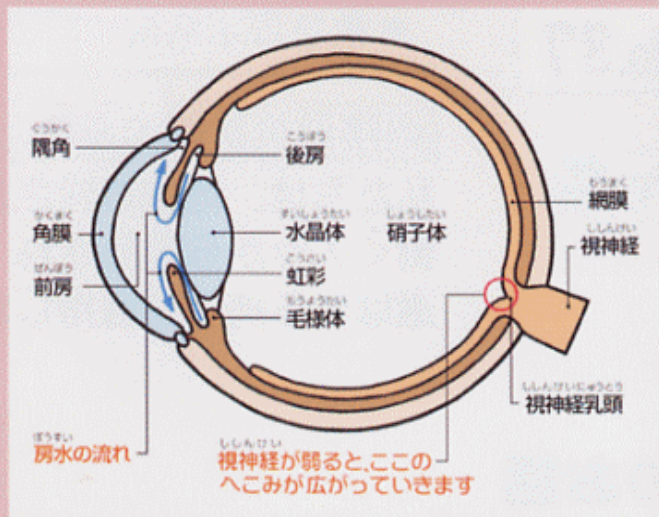


図 1

てゆきます (図 1)。この房水によりほぼ一定の圧力が眼内に発生し眼球の形状が保たれます。この圧力のことを眼圧と呼びます。

## ■眼圧の正常値

正常の眼圧は10～21mmHgとされています。しかし、これは健康人を対象とした調査に基づいて統計的に求められた値であって、

この範囲にあるからといって緑内障にならないとは言いきれません。

## ■緑内障の定義

緑内障とは、視神経乳頭の異常と特徴的な視野の変化の両方あるいはどちらかがあり、眼圧を十分に下げることによって視神経障害の改善あるいは進行を防止できる可能性のある病気、と定義されています。古くから、眼圧が上昇することで視神経が障害される病気として理解されてきました。しかし、最近の調査で日本人には眼圧は正常の範囲にありながら、同様の視神経障害がおこるタイプの緑内障（正常眼圧緑内障）が一番多いことがわかりました。

## ■緑内障の症状

見える範囲（視野）が狭くなる症状が最も一般的ですが、初期は視野障害があっても全く自覚しないことがほとんどです。多くの場合、病気の進行は緩やかなので、かなり進行するまで症状に気付かないこともあります。視野障害が進行した場合は、視力が低下したり、場合によっては失明することさえあります。急激に眼圧が上昇した場合は眼痛・充血・目のかすみのほか、頭痛や吐き気を自覚することもあります。

## ■緑内障の検査

緑内障を診断したり治療経過の良し悪しを判断するには、多くの検査

が必要です。

#### (1) 眼圧検査

#### (2) 隅角検査

主に診断のために行う検査で、専用のコンタクトレンズを用いて行います。

#### (3) 眼底検査

視神経の障害の程度を判定するために行う検査です。視神経の眼球の出口（視神経乳頭）には、小さなくぼみがあり、緑内障ではこのくぼみが拡大します。健康診断などでは、よく「視神経乳頭陥凹拡大（ししんけいにゅうとうかんおうかくだい）」と判定されます。

#### (4) 視野検査

見える範囲を調べる検査です。緑内障の進行具合を判断するために、最も重要な検査です。

### ■緑内障の治療

緑内障は、眼圧を下げることであれば、その進行を防止したり、遅らせたりすることができる可能性のある病気です。ただし、ひとたび障害されてしまった視神経は、残念ながら回復することはありません。また、どんなに手を尽くしても進行を止められない緑内障もあります。しかし、早期に緑内障を発見できれば、言い換えれば、まだ視神経の障害が軽いうちに手を打つことができれば、失明に至る危険性はぐっと少なくなります。治療方法としては、薬物療法（主に点眼薬）・レーザー治療・手術がありますが、すべての緑内障に対して同じ治療効果があるのではなく、緑内障のタイプやそれぞれの人に適した治療方針を決定してゆくことがとても重要です。多くの方が慢性の緑内障ですが、その大部分は薬物療法で経過を見ることが可能なのです。定期的に受診して検査と診察を受け、緑内障が進行していないかどうかを確認していくことが重要です。